

# 宿泊及び日帰利用に関する約款

## 適応範囲

- 第1条 当館が宿泊客もしくは館内を利用する客との間で締結する宿泊・日帰契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるものとします。
2. 当館が、法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

## 宿泊・日帰契約の申込み

- 第2条 当館に宿泊及び日帰契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当館に申し出ていただきます。
- 1) 宿泊者名・日帰利用者名
  - 2) 宿泊日及び到着予定時刻
  - 3) 宿泊料金 原則として別表第1の基本宿泊料による。) 日帰料金
  - 4) その他当ホテルが必要と認める事項
2. 宿泊客が、宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当館は、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

## 宿泊・日帰契約の成立等

- 第3条 宿泊及び日帰利用に関する契約は、当館が前条の申込みを承諾したときに成立するものとします。
- ただし、当館が承諾をしなかったことを証明したときは、この限りではありません。
2. 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間 8 日を超えるときは 3 日間)の基本宿泊料を限度として当館が定める申込金を、当館が指定する日までに、お支払いいただきます。
3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第7条及び第19条の規定に適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第13条の規定による料金の支払いの際に返還します。
4. 第2項の申込金を同項の規定により当館が指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし、申込金の支払期日を指定するに当たり、当館がその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

## 申込金の支払いを要しないこととする特約

- 第4条 前条第2項の規定にかかわらず、当館は、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。
2. 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当館が、前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

## インターネットならびに電子メールでの宿泊及び日帰契約に関する特約

- 第5条 インターネット上当館ホームページならびにこれに準ずるページをご覧の上、電子メール又はインターネットの特約システムにて予約申込みを行った場合、本約款が適用されることとします。

## 宿泊・日帰契約締結の拒否

- 第6条 当館は、次に掲げる場合において、宿泊及び日帰契約の締結に応じないことがあります。
- 1) 宿泊及び日帰の申込みが、この約款によらないとき。
  - 2) 満室(員)により客室の余裕がないとき。
  - 3) 宿泊及び日帰利用をしようとする者が、宿泊及び日帰利用に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。
  - 4) 宿泊及び日帰利用をしようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。
  - 5) 宿泊及び日帰利用に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
  - 6) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき。
  - 7) 宮崎県旅館業法施行条例第10条の規定する場合に該当するとき。
  - 8) 宿泊もしくは館内を利用しようとする者又は同伴者が暴力団、暴力団員、暴力関係団体又は関係者、及び刺青の者、その他反社会的勢力であることが判明したとき。

## 宿泊客の契約解除権

- 第7条 宿泊客は、当館に申し出て、宿泊契約を解除することができます。
2. 当館は、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合 第3条第2項の規定により当館が申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます。)は、別表第2に掲げるところにより違約金を申し受けま。ただし、当館が第4条第1項の特約に応じた場合にあつては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払い義務について、当館が宿泊客に告知したときに限ります。
3. 当館は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後8時(あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻)になつても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

## 当館の契約解除権

- 第8条 当館は、次に掲げる場合においては、宿泊及び日帰契約を解除することがあります。
- 1) 宿泊及び日帰客が宿泊及び日帰利用に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行をしたと認められるとき。
  - 2) 宿泊及び日帰客が伝染病者であると明らかに認められるとき。
  - 3) 宿泊及び日帰利用に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
  - 4) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。
  - 5) 宮崎県旅館業法施行条例第10条の規定する場合に該当するとき。
  - 6) 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたづら、その他当館が定める利用規則の禁止事項(火災予防上必要なものに限る。)に従わないとき。
  - 7) 宿泊もしくは日帰利用をしようとする者又は同伴者が暴力団、暴力団員、暴力関係団体又は関係者、及び刺青の者、その他反社会的勢力であることが判明したとき。
2. 当館が前項の規定に基づいて宿泊及び日帰契約を解除したときは、宿泊及び日帰客がまだ提供を受けていない宿泊及び日帰サービス等の料金はいただきません。

## 宿泊の登録

- 第9条 宿泊客は、宿泊日当日、当館のフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。
- 1) 宿泊客の氏名、年齢、性別、住所及び職業
  - 2) 外国人にあつては、国籍、旅券番号、旅券の写し、入国地及び入国年月日
  - 3) 出発日及び出発予定時刻
  - 4) その他当館が必要と認める事項
2. 宿泊客が第13条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

## 客室の使用時間

- 第10条 宿泊客が当館の客室を使用できる時間は、午後3時から翌朝10時までとします。
- ただし、連続して宿泊する場合には、到着日及び出発日を除き、終日使用することができます。
2. 当館は、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には次に掲げる追加料金を申し受けま。
- 1) 超過3時間までは、室料相当額の30%
  - 2) 超過6時間までは、室料相当額の60%
  - 3) 超過6時間以上は、室料相当額の100%
3. 前項の室料相当額は、基本宿泊料の70%とします。

## 利用規則の厳守

- 第11条 宿泊及び日帰客は、当館内においては、当館が定めた館内に掲示した利用規則に従っていただきます。

# 宿泊及び日帰利用に関する約款

## 営業時間

- 第12条 当館の主な施設等の営業時間は次のとおりとし、その他の施設等の詳しい営業時間は備付けパンフレット各所の掲示、客室内のサービスレクドラー等でご案内いたします。
- (1) フロントキャッシャー等サービス時間
    - イ. 門限 午前0時
    - ロ. フロントサービス 午前7時～午後10時
  - (2) 飲食等(施設)サービス時間
    - イ. 朝食 午前7時～午前9時
    - ロ. 夕食 午後6時～午後9時
    - ハ. その他飲食等
      - スナック 午後7時～午前0時
  - (3) 附帯サービス施設時間
    - 売店 午前7時～午後9時
2. 前項の時間は、必要やむを得ない場合には随時に変更することがあります。その場合には、適当な方法をもってお知らせします。

## 料金の支払い

- 第13条 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳は、別表第1に掲げるところによります。
2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当館が認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等にこれに代わり得る方法により、宿泊客の出発の際又は当館が請求した時、フロントにおいて行っていただきます。
  3. 当館が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けま

## 当館の責任

- 第14条 当館は、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当館の責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。
2. 当館は消防機関から防火優良認定証を受領しておりますが、万一の火災等に対処するため、旅館賠償責任保険に加入しております。

## 契約した客室の提供ができないときの取り扱い

- 第15条 当館は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。
2. 当館は、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設の斡旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当館の責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

## 寄託物等の取り扱い

- 第16条 宿泊及び日帰客がフロントにお預けになった物品又は現金ならびに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが、不可抗力である場合を除き、当館は、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当館がその種類及び価格の明告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかったときは、当館は15万円を限度としてその損害を賠償します。
2. 宿泊客が、当館内にお預けになった物品又は現金ならびに貴重品であってフロントにお預けにならなかったものについて、当館の故意または過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当館は、その損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価格の明告のなかったものについては、15万円を限度として当館はその損害を賠償します。

## 宿泊・日帰客の手荷物又は携帯品の保管

- 第17条 宿泊及び日帰客の手荷物が、利用に先立って当館に到着した場合は、その到着前にフロントが了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊・日帰客がフロントにおいてチェックインする際お渡します。
2. 宿泊及び日帰客がチェックアウトしたのち、宿泊及び日帰客の手荷物又は携帯品が当館に置き忘れられていた場合において、その保有者が判明したときは、当館は、該当所有者に連絡をすると

もにその指示を求めるとします。ただし、所有者の指示がない場合又は所有者が判明しないときは、発見日を含め7日間保管し、その後最寄りの警察署に届けます。

3. 前2項の場合における宿泊及び日帰客の手荷物又は携帯品の保管についての当館の責任は、第1項の場合にあっては前条第1項の規定に、前項の場合にあっては同条第2項の規定に準じるものとします。

## 駐車場の責任

第18条 宿泊及び日帰客が当館の駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当館は場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当館の故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

## 宿泊・日帰客の責任

第19条 宿泊及び日帰客の故意又は過失により当館が損害を被ったときは、当該宿泊及び日帰客は当館に対し、その損害を賠償していただきます。

別表第1 宿泊料金等の内訳(第2条第1項、第3条第2項及び第13条第1項関係)

宿泊客が支払うべき金額	1. 宿泊料金	基本宿泊料 室料+朝・夕(食料)
	2. 追加料金	追加飲食 朝・夕(食以外の飲食料)及びその他の利用料金
	3. 税金	消費税 入湯税

- 注) 1. 子供料金は3歳から小学生までご適用し、商品により大人に準じる食事と寝具等を提供したときは大人料金の70%、子供用食事を提供したときは小学生7,500円(税別)・3歳以上の未就学児4,500円(税別)をいただきます。休前日1,000円(税別)割増、ゴールデンウィーク等大型連休・年末年始等は別途割増。また、食事及び寝具を提供しない2歳の幼児については施設利用料として1,000円(税別)をいただきます。
2. 基本宿泊料及び日帰料はフロントに提示する料金表によります。

別表第2 違約金 第7条第2項関係)

契約申込人数	14名まで	15名～30名まで	31名～100名まで	101名以上
契約解除の通知を受けた日				
不泊	100%	100%	100%	100%
当日	100%	100%	100%	100%
前日	50%	50%	80%	80%
2日前	30%	30%	50%	50%
3日前	30%	30%	30%	50%
5日前		30%	30%	30%
6日前			20%	30%
7日前			20%	30%
8日前			10%	15%
14日前			10%	15%
15日前				10%
30日前				10%

- 注) 1. %は、基本宿泊料及び日帰料に対する違約金の比率です。
2. 契約日数が短縮した場合は、その短縮日数にかかわらず1日(初日)の違約金を収受します。
  3. 団体客(15名以上)の一部について契約解除があった場合、宿泊の10日前(その日より後に申込みをお引き受けした場合にはそのお引き受けした日)における宿泊人数の10% 端数が出た場合には切り上げる)にあたる人数については、違約金はいいただきません。